

主な質疑応答

Q：前期第4四半期に発生した建築工事の不具合について、業績にどの程度影響が出ているのか。

A：一部工事に掛かる損失額としては、工事損失引当金のうち6億から7億円を計上しております。なお、本件につきましては、既に2018年3月期に工事損失引当金を積み立てておりますので、今期には与える影響はないと見込んでおります。

Q：土木事業での、受注未達の要因は「失注」「期ズレ」とのことだが、意味合いが違うのでそれぞれの金額を教えてほしい。期首目標とどの程度かい離があったのかと、今期へ期ズレした額はどの位か。

A：受注については期首目標より30億円程度下回っており、今期に期ズレした分もほぼ同様であります。

Q：繰越工事が少なくなってきたとのことだが、どの程度減ったのか。

A：繰越工事は、連結で土木事業では76億円減っております。

※決算説明会での回答に誤りがありましたので訂正いたします。

Q：前期、前々期は、上期で利益が積み上がっているが、今期予想の上期は悪い。今期及び2019年3月期の業績予想についてどのように見立てているのか。

A：当社の業績は各工事の工期によりますが、下期に上がってくる傾向にあります。昨年度は、稀なケースで上期に業績が積み上がった状況でした。当社の業態として、土木と建築の事業が約半分半分になっていますが、業績に大きく寄与するものの一つとして、設計変更があります。この設計変更がいつ、どの程度の金額で契約できるかによって業績に大きく影響します。昨年度の場合は、設計変更が上期に集中したという状況ですが、今期は、例年同様に下期になりそうだと見立てています。ただし、設計変更は蓋然性が確保されるまで業績に織り込むことが出来ませんので、堅めに計画しているというところです。

Q：2018年3月期の製造事業については、売上総利益が2億円程度落ち込んでいる要因は何か。

A：海外子会社でコンクリート2次製品を製作している会社では増益となりましたが、国内での製造会社であるピー・エス・コンクリート社では、建築案件が増えてきていますが案件の期ズレ等の影響で業績が悪化しました。このため製造事業合計では減益となりました。なお、ピー・エス・コンクリート社では再建計画を策定し、今期より実施しており、今後このような状況は発生させないように取り組んで参ります。

Q：昨年度の床版取替工事の御社のシェアはどの程度であったか。

A：PC建設業協会の発表によると、PC市場は約3000億円、その内維持補修分野が約600億円で新設が約2400億円となっています。その600億円のうちの約480億円が床版取替工事となっています。当社は約45億円の受注があり、シェアは9%程度になります。

Q：今期の床版取替工事の発注見通しについて伺いたい。

A：PC建設業協会の取りまとめた発注予測では、PC市場としては3000億円程度で推移と見ており、そのうちの900億円程度は維持補修分野になるだろうと予想しています。床版取替工事は、720億円程度と予想しています。

Q：働き方改革等が進んでいくともっと仕事が平準化されてくるだろうと見ている企業もありますが、御社の場合は、現状まだ下期に偏るとのことですが、今後の工事の平準化についての見方について伺いたい。

A：業界団体として、発注機関には平準化してもらいたいと要望していますが、事業の開業時期の関係上、一部の時期に偏る実情があります。

Q：2018年3月期はリニア新幹線のガイドウェイ側壁製作工事を受注していましたが、今後もリニア関連の工事の発注予定があるのでしょうか。

A：2027年の開業に向けて、今後も発注されてくると予想しております。

以上